

第2章 関西本線（亀山～柘植）

2020年（令和2年）の最初の旅行プランは、次の日程で臨む。歩きよし、観光よし、料理よしで、感動また感動の連続でした。加えて、天気にも恵まれ最高の3泊4日の旅行でした。なお、歩きの方は、当初予定の関西本線の亀山から柘植まで無事踏破し、通算営業キロは1万565km（活動回数521回）となりました。

詳細はこれから順次ご紹介します。



※日本三景”天橋立”の散策マップ

第1節 旅プラン

○2020年1月25日（土）晴れ

のぞみ3号 6:34 → 名古屋 7:51

名古屋 8:18 → 亀山 9:35

亀山～関～加太～柘植 (20.0 km)

柘植 16:46 → 草津 17:34



草津第一ホテル 077-562-2411 (同じ草津でも、群馬県の草津温泉ではなく、滋賀県です)

○1月26日(日) 晴れ

草津 9:13 → 京都 9:37

家内と京都で合流！！

はしだて3号 京都 10:25 → 福知山 11:45 → 天橋立 12:34

天橋立など観光



天橋立荘泊 0772-20-1126

○1月27日（月）晴れ

天橋立 11:33 → 豊岡 12:48

豊岡 13:02 → 城崎温泉 13:16

城崎文芸館など散策



城崎温泉ときわ別館泊 0796-32-2814

○1月28日（火）晴れ

こうのとり14号 城崎温泉 11:33 → 福知山 12:46 → 新大阪 14:29

ひかり472号 新大阪 14:43 → 新横浜 17:22

第2節 概要

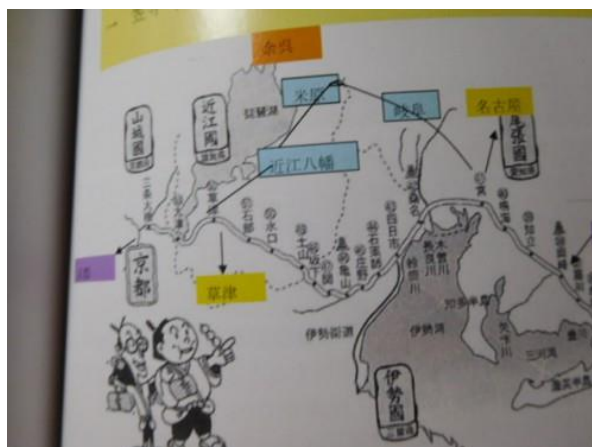
2020年1月25日（土）、数日前の天気予報では雨マークであったが、天や神のご加護を得て晴れマークとなる。通常は大人の休日倶楽部を活用し、新幹線ひかり号での移動で臨むところであるが、ウォーキング時間を少しでも長くする方針から、のぞみ号に切り替える。それ故、名古屋発8時18分の亀山行に間に合う。この季節、日没が早いため、少なくとも17時前には柘植駅に到着しなかったし、また加太（かぶと）から柘植（つげ）までは、山道のため不安があったからだ。結果的にはこの判断は正しかった。

家内に中央林間に送ってもらい、5時30分の南栗橋行きで長津田まで行き、そこから5時46分の東神奈川行きで新横浜に向かう。新横浜には6時到着。30分位、待合室で寛いで、新幹線ホームへ。新幹線はうとうとしながら、名古屋駅へ。12番ホームは、8時5分発の南紀1号勝浦行きが待っていた。この車両は2年前、新宮から白浜まで踏破する際、この特急に乗り新宮まで行ったことを思い出した。そして、新宮から勝浦まで歩いたことを。懐かしい限り。少し肌寒かったので待合室で待機する。



※名古屋駅、亀山駅

名古屋から亀山までは、2013年3月踏破した。それ故、かつて苦勞した道筋を思い出しながら、車窓から眺める。特に、河原田から津への移動は、伊勢鉄道の活用がメインのため、亀山経由ではない。それ故、私にとっても、久しぶりに河原田から亀山までの鉄道風景を観て懐かしくなった。その中でも、鈴鹿川に沿ってある河曲（かわの）駅は、日没して暗中模索の心境であった吾輩を助けてくれた高校生を思い出し、感謝の気持ちで一杯となる。



※東海道本線（名古屋～米原～草津）と東海道五十三次（名古屋～桑名～亀山～関～草津）

亀山駅には、9時35分到着。本日のコースは、関西本線の亀山～関～加太～柘植と、都合営業キロ20.0kmのつたい歩きである。1月の歩きは私にとっても珍しく、2013年1月、副都心線の開通に伴って挑戦した和光市～小竹向原～桜台以来となった。本日もメイクドラマがあった。

第3節 1日目：1月25日（土）；亀山～柘植 晴れ

2020年1月25日（土）晴れ、関西本線の亀山から柘植までの営業キロ20.0kmに挑戦する。各駅の立ち寄り時間は、次の通り。

亀山（9時35分）～関（11時22分）～加太（13時17分）
～柘植（16時17分）

名古屋から亀山までは、電化された車両であったが、亀山から柘植そして加茂までは非電化の車両であった。同様に、紀勢本線の亀山から新宮までも非電化。



※亀山駅前、ベルコ三重祭典（亀山）

7年振りの亀山駅前を堪能し、5.7km先の関駅を目指す。9時53分、現在お世話になっている”みどり生命”の親会社のベルコグループの三重祭典があった。紀勢本線の紀伊田辺でもベルコグループの斎場があり、親近感で一杯となったことを思い出した。このような斎場はウォーキングの際よく見かける。一つは、

みどり生命でお世話になっていることもあろう。また、自分がそろそろ終活する年齢層に近づいたこともあろう。



※大津 69 kmの道路標識、ここから国道 1 号線

10 時 8 分、大津 69 km、甲賀 34 kmの看板を見つける。名阪国道を潜った先で国道 565 号から国道 1 号線となる。関駅まではフラットな道筋が続く。関駅前は、関宿のど真ん中にあり賑やかであった。亀山駅よりも関駅が賑やかに感じた。



※関駅、亀山～加茂までの車両（1 両編成のワンマンカー）

観光センターで加太・柘植への道筋を念のためお伺いする。ところがショッキングな情報でビックリする。それは、先日の大雨で国道 1 号線から分岐した国道 25 号線（大和街道）を 1 km位進んだ先で通行止めがあるとのこと。もしかすると、車のみならず歩きもダメな可能性があるとのこと。この観光センターで鋭意努力して頂くが、最新情報の入手までは至らず。併せて、食事する箇所もお伺いする。「ここから加太そして柘植までは昼食をとる店はないですよ」

の情報を得て、また、運よく 11 時 39 分とランチタイムとなったので、道の駅
関宿で名物”俵握り飯”を頂く。



※関駅



※関宿の看板、道の駅”関宿”で食事

昼食後、不安な気持ち一杯で途中通行止めがある道筋を進む。その一方で、私の進行方向と同じ道筋の車を観て安堵する。念のため、道筋でお会いした地元の人に聞く。「車は制限があるかも知れませんが、歩きは大丈夫と思います」との回答を得安堵する。それから、不安が払拭され本来の歩きとなる。



※国道 25 号線への交差点、通行止め標識、加太川（この川に沿った先に工事現場あり）



※工事現場界限

12時42分、土砂が崩れて修理している工事現場（片側通行）に到達。加太駅には13時17分到着。駅舎の壁には、”加太地区の鉄道遺産群”が展示されていた。13時49分、関小学校前を通過。13時53分、板屋橋を渡り誤った方向に進み、メイクドラマを楽しむ。前方に歩くことができない名阪国道が立ち塞がったからだ。それにしても迷ったのが不思議であった。この界限で地図を確認しなかったのが敗因だろう。



※加太駅



※板屋橋（道に迷った地点）、誤って進む



※中在家（リカバリーの原点）、国道 25 号線に出る

地元の応援を得て、リカバリーに 30 分位要し、中在家という地名に到達。地元の人の助言通り、ここから真っ直ぐ行った先を右手に折れ、トンネル（JR 線の線路下）を潜った先に国道 25 号線が続いていた。この時の時刻は、14 時 32 分だった。



※亀山市加太北在家、イシバシ工業、伊賀市へ

14 時 57 分、岩石から小石・山砂を精製するイシバシ工業があった。合理的な流れ作業を見学しながら、柘植駅を目指す。15 時 14 分、亀山市から伊賀市となる。



※鉄道下を潜るとため池

歩いて歩いて山道が続く。15時30分、JR線下を潜り、鉄道の左側を歩く。鉄道を潜った先に川のようなため池があった。また暫く歩くと、砂を精製する企業があった。16時、ペットボトルを繋ぎ合わせた作品”つながり”があった。



※ペットボトルによる作品（つながり）、柘植駅（三重県で最初の駅）

やっとのことで、2017年10月15日（日）、草津線（柘植～草津）踏破の際、始点となった柘植駅に到着する。この柘植駅は三重県の中でJR線開通の最初の駅とのことで、”2020年2月19日で開業130周年を迎える”との掲示板があった。また、この駅舎は伊賀忍者が駅舎の階段通路を中心に描かれていた。それから絵画つきイロハカルタも通路一面にあった。



※柘植駅



※柘植駅



※草津線の電車（柘植駅）、草津駅、竹生での刺身盛り合わせ

16時46分の電車（京都行き）で草津駅を目指す。車窓から2年半前に踏破した草津沿線を思い出し、堪能する。18時過ぎ、草津第一ホテルするや否や、ホテル推奨の割烹・食事処”竹生”に向かい、地酒を飲みながら夕食を堪能する。この店の常連の方との世間話の他、店員に母校立命館の後輩が2名もいて盛り上がる。世間は狭し。感動また感動。充実した一日を送ることができる。これで、名古屋～桑名～亀山～柘植～貴生川～草津（営業キロ116.6km）が繋がる。続く・・・。



※竹生での懇親



※割烹・食事処”竹生”

第4節 二日目：天橋立の旅

関西本線つたい歩きの後は、家内と京都駅で待ち合わせ、2020年1月26日（日）から28日（火）にかけ、二泊三日の日程で”天橋立”と”城崎温泉”（ネットによると、草津温泉、別府温泉、箱根温泉に次いでの人気）を堪能する。



※草津駅、京都駅（新幹線）、京都駅（山陰本線乗り場）



※京都駅（前4両はしだて3号、後ろ4両まいづる3号：綾部で切り離し）

このコースを設定したのは、日本三景（松島・天橋立・宮島）のうち、天橋立のみを家内共々まだ行ったことがなかった。その思いを叶えるため、天橋立の旅を企画した。因みに松島は昨年10月、平泉にある中尊寺、気仙沼、そして松島の旅でクリアした。



天橋立駅

加えて、将来、京都丹後鉄道や山陰本線を踏破したいこともあり、下見の狙いもあった。それ故、天橋立から豊岡まで京都丹後鉄道を乗り継いで行ける城崎温泉も選んだ。今思えば、いい旅を計画したものだ。歩きといい、観光といい、ホテルといい、料理といい、自分自身最高の選択をしたものだと自問自答する。



※天橋立荘への路、ホテルに面した遊歩道



※天橋立智恩寺、ボートにて

天橋立駅に到着するや否や、荷物を軽減する意味から、路地を堪能しながら本日宿泊する”天橋立荘”に向かう。ホテルは10分位歩いた先にあり、海に面してあった。15m位先には”はまなすの小径”が見えた。それ故、ホテルに面した海は川のように見えた。



※ボートからの風景、ケーブルカー、ボート到着

日本三景のひとつである天橋立の観光は最高であった。天橋立智恩寺を参拝のあと、傘松観光ボートで往復阿蘇海を横切る。それ故、1時間強余裕ができる。向う岸に渡り、ケーブルカー乗り場（府中駅）まで移動。ここから、400m位の高低がある山をケーブルカーで往復移動。そして、100段位ある階段を上り、傘松公園へ。ここで、”傘松公園から股のぞきをすると天への架け橋に見えるよ”に挑戦。また、高台からの天橋立の眺めは最高であった。土産売り場で小休止したあと、ケーブルカー、ボートと乗り継ぎ、智恩寺界限の出発点に戻る。



※府中駅、天橋立の眺め、ケーブルカー



※傘松公園からの天橋立眺め、股からの風景



※小休憩、ケーブルカーの往復乗車券、復路のボート乗り場



※ボートからの船尾の眺め、復路のボート、遊歩道を歩きホテルへ

そこから、ホテルで教えてもらった海にそった遊歩道を経由し、ホテルへ。16時頃到着。温泉で寛いだあと、17時半より松葉ガニを中心とした料理を堪能する。贅沢な一日であった。



※朝食、ロビーでの掲示板



※ホテルのベランダと広々とした客室

翌日は、9時前に天橋立まで送ってもらい、廻旋橋と大天橋を渡り、2.6 kmある松並木を歩く。そして、11時33分の京都丹後鉄道などを利用して城崎温泉に移動する。続く・・・。



※廻旋橋、日本三景碑



※松並木始点から終点



※夫婦松、松並木

第5節 3日目：城崎温泉の旅

2020年1月27日（月）、11時33分発の1両編成の車両で豊岡駅に向かう。かつては、京都丹後鉄道は国鉄であったとのこと。車窓からの風景を堪能しながら、山陰本線と合流する豊岡駅を目指す。そこから山陰本線の浜坂行きに乗り換え、城崎温泉（13時16分着）に向かう。

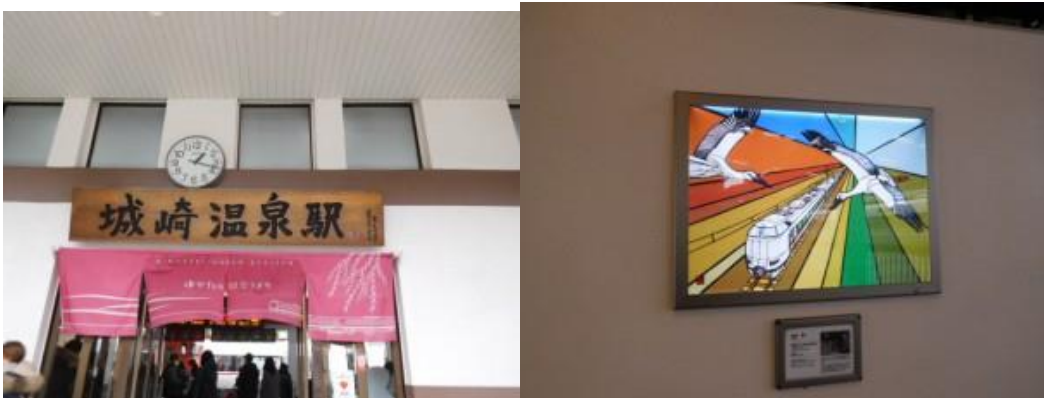


※天橋立駅



※天橋立駅、コウノトリの郷駅、豊岡駅

城崎温泉も天橋立同様、首都圏とほぼ同じ気温で、平地や山間には雪化粧の姿はなかった。聞くとところによると、昨年引き続き、今年も全く雪を見ることができないとのこと。地球の温暖化の影響だろうか。地球に何か異変が起きているのだろうか。



※城崎温泉駅

城崎温泉ときわ別館のチェックインまで1時間半位あったので、駅前の観光センターを訪ね、観光地を教えてもらう。駅から近い”城崎文芸館”と”城崎むぎわら細工伝承館”を教えて頂く。時間の関係で、駅から5分程度歩いた城崎文芸館のみの観光とする。入館料500円を要する。文芸館に入るや否や、城崎温泉全体が一丸となり共存光栄の精神の下、運営している掲示板を観て、感動また感動。駅は玄関、旅館は客室、柳並木は廊下、外湯は大浴場、土産店は売店、そして飲食店はお食事処とあった。また、志賀直哉の作品や山下清のサイン入りの絵画などがあり、またまた感動。



※城崎温泉駅

これまで、鉄道つたい歩きを通じて、文学館に何回か出会った。今思い出すひとつは、京王線の武者小路実篤館、二つ目は近鉄線の司馬遼太郎館、三つ目は昨年歩いた奥羽本線の齋藤茂吉館である。そして、今回の文芸館である。



※城崎文芸館、共存共栄の精神



※志賀直哉、山下清

14時40分頃、送迎マイクロバスで”ときわ別館”まで送って頂く。丁重な送迎を受ける。旅館に到着するや否や天橋立荘と同様一番の湯を頂く。18時より、カニ料理を軸としたご馳走を堪能する。昨日と同様、部屋までもって来て頂く。



本来ならば、浴衣姿で外湯を楽しむところ、雨のため取り止める。誠に残念。因みに外湯の施設は、鴻の湯、御所の湯、まんだら湯、一の湯、柳湯、地藏湯、さとの湯(足湯)とあり。翌朝も一番風呂を頂き、8時より部屋にて朝食となる。昨夜に続き、我々年配にとって胃袋にやさしいご馳走が並んでいた。感動また感動。



※庭園にて、朝食、夕食のメニュー



※ときわ別館、城崎温泉駅



※さとの湯、松葉ガニの陳列、城崎温泉駅

第4節 4日目：帰宅

丁重な見送りを受け、10時前旅館を後にする。10時頃、駅に到着。” こうのとり14号”まで1時間半位あったので、お土産の購入も含め、城崎温泉駅前を散策する。駅構内で駅弁を購入して、特急に乗り込む。そして、新大阪でひかり472号に乗り継いで家路に。帰りの電車を利用して、6月末から7月初旬にかけて予定の、山陰本線つたい歩き（鳥取～松江）についてプランを練る。今回の旅は3泊4日で、天や神のご加護を得て、最高の旅が閉幕となる。



※こうのとり14号（城崎温泉駅）、特急車内、新大阪駅